

報告第 6 号

令和 5 年度教育委員会事務の点検及び評価に関する報告について

令和 5 年度教育委員会事務の点検及び評価に関する報告書を別紙のとおり作成したので、地方教育行政の組織及び運営に関する法律（昭和 31 年法律第 162 号）第 26 条第 1 項の規定により報告する。

令和 6 年 9 月 2 日提出

里庄町長 加藤 泰久

令和5年度

教育委員会事務の点検及び評価に関する報告書

令和6年9月

里庄町教育委員会

I はじめに

地方教育行政の組織及び運営に関する法律（以下「地教行法」という）により、全ての教育委員会は毎年その権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し議会に提出するとともに公表しなければならないことになっております。

本報告書は、地教行法第26条に基づき、令和5年度の点検及び評価を行い、報告するものです。

〈参考〉

地方教育行政の組織及び運営に関する法律（抄）

（教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等）

第26条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務（前条第1項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務（同条第4項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。）を含む。）の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

II 点検及び評価の方法等

1 対象

令和5年度の教育委員会の権限に属する事務の管理及び執行の状況

2 報告

令和6年9月2日 議会に提出

3 公表

教育委員会事務局での閲覧

町役場の掲示場に掲示及び町ホームページでの公開

III 点検及び評価

1 教育委員会の組織・活動

（1）会議の運営等

教育委員会議は、定例会を毎月1回（令和5年度：計12回）開催しました。（※資料1）全員が出席し、十分な時間を掛けて審議及び協議を行い、充実した運営となっています。審議を深めるための工夫として、事前に事務局に議案書及び関係資料を提出させるよう努めるなど、今後も引き続き改善したいと考えています。

町長とは、総合教育会議（１０月・２月）や諸行事で会う機会を通じて、「時間割の削減について・校務のDX化について」「非認知能力向上の取り組みについて」を議題として、意見交換や協議、支援の要請などを行い、連携を強化することに努力してまいりました。今後も町当局との連携を図り、一貫した教育行政を進めることが、重要と考えています。教育委員と町長との懇談や意見交換は、両者の円滑な連携と一貫性を図るために重要であると考えており、今後も引き続き実施したいと考えております。

事務局の職員体制については、令和２年度から、学芸員を町費で配置し、文化財などに関する専門性を高め、文化財保護委員と連携することで体制の整備を図りました。学校教育について、学校の指導支援を行う指導主事を継続して配置しています。また、地域と子どもたちを結ぶ教育コーディネーターも継続して町費で配置し、学校教育・社会教育の両面にわたり、専門性を高める取り組みを行っております。今後も、事務分掌の見直し等を図りながら効果的な体制の整備を図る必要があります。

地域の実情に応じた施策及び地域住民の意向を施策に反映することについては、各校の学校運営協議会の意見や、学校・園の「現状」を広く地域住民の方々に知っていただくため、「一日学校公開」において、来場の際に頂くアンケートや、「教育を考えるつどい」での意見等も参考にして施策に生かすように努めています。学校教育及び社会教育の両面で工夫や努力が今後一層求められるようになっており、今後も鋭意検討を続けたいと考えております。

教育委員の研修については、岡山市町村教育委員会連絡協議会総会は書面での開催、研修会はZoomでの開催でした。今後も委員としての識見の向上と、当町の幼児・児童・生徒の学力向上対策や豊かな成長が推進されるよう、努力してまいります。先進地の学校訪問等を通して、具体的な取り組みを研修することを目的に、岡山市町村教育委員会連絡協議会や県外視察研修を実施しました。（※資料２）

それ以外にも、教育長、指導主事等が定期的に学校や社会教育関係施設の訪問を限られた時間の中で実施し、現状把握を行ったうえで、業務の見直しや施設の改善を提案しました。学校では、教育課程の見直しを行い、時間割を工夫することで、教職員の働き方改革を進めました。また、東公民館の屋上屋根の防水改修工事を実施しました。

学校・園の行事や教育委員会主催の行事にも積極的に参加し、実情を理解しました。（※資料３）また、学校・園の現状把握のために実施している学校・園訪問では、学校・園の取組の成果や課題について、把握することができました。その後、教育委員の見解を聴取したうえ、教育委員会の審議及び協議に役立て、可能な限り学校・園の支援を行いました。

（２）公開性

教育委員会が、町民にとって身近なものとなるよう、可能な限り情報を公開する方針のもとで、定例会の開催予定及び議事内容を町ホームページに掲載しています。議事内容については、プライバシーや個人情報等で配慮を要する事項も多々ありますので、内容の公開につきましては、今後も慎重に進めて行きたいと考えております。

町主催の分館長会議では、教育長や教育委員会事務局職員が出席し、町民の方々から教育行政等についての意見や要望等が出た場合には、教育委員会で十分な協議を行います。公聴活動は、町民の意志を反映した教育行政を推進するために大切なことですので、今後も町民の方々からの意見や要望等をしっかりお聞きするとともに、教育行政施策の広報について、今後も積極的に行いたいと考えております。

また、教育委員会及び学校・園の取組を紹介した「里ちゃんだより」(※資料4)を年3回発行し、町内全戸へ配付しました。

2 教育委員会が管理執行する事務

(1) 基本的・総務的事務

教育行政重点施策(※資料5)の策定など基本方針の多くは、事務局に原案や資料を提出させ、教育委員会として慎重に審議することができています。

教育関係予算については、各校・園等の要望を聞き、教育長等が町長へ要求し、教育委員会としての意見を尊重した議案が議会へ提出されるよう努めています。

従来から当町教育予算の比率は高く、教育が重要視されています。教育予算編成の話し合いにもっと時間をかけ、里庄町の教育がより充実するようにしたいと考えています。

(2) 人的管理に属する事務

町立小中学校の校長等の任免について県教育委員会に対して内申を行っていますが、今後も慎重に行っていきたいと考えています。文化財保護委員等各種委員の委嘱または任免は、教育委員会で議決しています。人的管理に属する事務については、県教育委員会及び町長部局との連携をより密にしていこう努めてまいります。

学校関係職員の研修は計画的・効果的に実施され成果が上がっています。本年度の教職員研修会では、外部講師を招致し、「対話型鑑賞」をテーマにした研修を行いました。この研修を通して、視覚的な情報を読み解く思考力や、それを言語化して伝えるためのコミュニケーション力、意見をまとめるファシリテーション力について学び、2学期以降の子どもの指導・支援に生かしました。

また今年度も、外部人材の活用や支援員等の配置、中学校における部活動休養日の設定、夏季休業中(8月10日～16日)及び冬季休業中(12月28日～1月4日)の学校完全閉庁期間を設定、幼稚園・小中学校への「自動音声対応電話の導入」の定着など、学校現場における働き方改革に向けて、具体的な取り組みを実施しました。

新型コロナウイルス感染症については、学校教育において本年度も多少影響がありましたが、5月から5類に移行したことを受け、運動会や修学旅行、学芸会などの学校行事については、一部規模の縮小、開催内容の変更を行いつつも、実施することができました。

東西小学校放課後児童クラブ、幼稚園預かり保育の支援員や学校教職員、生活支援員や教育委員会が、子どもたちの居場所づくりや心のケアに、一丸となって努めた1年間となりました。

3 教育委員会が管理・執行を教育長に委任する事務

(1) 学校教育

新型コロナウイルス感染症対策については、5類に移行しましたが、各学校園では配慮を行いつつ、新しい学校生活様式への転換を図りながら取り組みました。マスクの着用は任意としながらも、手指消毒、室内換気の徹底など、教職員・園児・児童・生徒・学校関係者が取り組みました。

小・中学校の全国学力・学力状況調査の結果は、概ね全国平均のレベルにあります。町としての学力向上の方針を示し、各学校も学校としての学力向上策を定めて鋭意努力しています。

教育委員会としても、学力向上を図るためソフト面やハード面の予算を措置いたしました。町内の幼稚園、小中学校の教育職員等を対象とした教職員研修を実施いたしました。

いじめ・不登校の解消に向けては、引き続き町をあげて重点的に取り組みましたが、登校できにくい児童・生徒が複数名います。スクールソーシャルワーカー、スクールカウンセラー、浅口市にある「浅口大簡塾（適応指導教室）」を、浅口市と協定を結び利用可能にしています。浅口大簡塾に通うことで、学校復帰を果たした生徒もおります。今後も継続して解消を目指して取り組んでまいります。

特別支援教育については、特別支援学級・通常学級において指導の充実を図っています。具体的には、町の教育相談員が学校の要請により学校を訪問し、具体的な指導方法について支援しています。また、生活支援員を対象に特別支援教育の理解を目的として、研修会を年間2回実施しています。感染症対策を行いながら、集合研修を実施しました。

小学校の通常学級に在籍している発達障害のある児童は、日常生活での様々な場面で困難さを感じています。その解消のため、児童が在籍している小学校での指導を行うとともに浅口市立六条院小学校内にある「あすなろ教室」を、浅口市と協定を結び利用可能にすることで、一人ひとりの児童に応じた個別の支援が受けられるようにしています。そうすることで学習の不安や友達関係やコミュニケーション面の不安を解消し、感情のコントロールの仕方等を身につけていきます。

少子化の進行などを背景に、子どもの育ちが大きく変化しており、様々な要因から小学校の生活になじめないことも見受けられます。里庄町では、保幼小接続スタンダードを作成し保育園、幼稚園、小学校が歩調を合わせ、幼児教育と小学校教育を円滑に接続し、子どもの育ちと学びを滑らかにつなげる努力をしています。

さらに、保幼小中のそれぞれの卒業期の姿を設定することで、就学前から中学校卒業までの11年間を見通した保育・教育が行えるようにしています。各卒業期の子どもの姿や、徳知体の各分野で付けたい力を明確にし、里庄町各園校の卒業期における「めざす子どもの姿」を設定しています。このことにより、幼稚園の先生が中学校の子どもの姿を意識して保育するなど、子どもの育ちの連続性を意識した保育・教育が行えるようになっていきます。

子どもたちがこれからの時代を生きていく上で、自分で主体的・自律的にキャリアを切り拓いていくための能力の獲得・向上が必要になります。この力は非認知能力と呼ばれていま

す。岡山大学の中山准教授の指導を仰ぎながら、各学校で非認知能力を高める取り組みを行いました。具体的には、「自分を高める力（意欲・向上心・自尊感情・楽観性等）」「自分と向き合う力（自制心・忍耐力・レジリエンス等）」「他者と向き合う力（共感性・協調性・コミュニケーション力等）」を高めるために「里庄3ションプログラム」を導入しています。年間2回のアンケートを実施し、実態に即した活動ができるようにしています。取り組みは4年目を迎え、各校は実態に応じて創意工夫をし、学校行事や授業に関連させた活動に広がりを見せています。効果として、児童生徒が穏やかに学校生活を送れるようになり、意欲の向上や子ども同士の関係性の向上、自主性や自立性も見られるようになってきています。

子どもたちが安心して学習や学校生活を送れるように、幼稚園、小・中学校に生活支援員を配置しています。東小学校6人・西小学校に7人、中学校3人、そして東幼稚園2人、西幼稚園に2人で、落ち着いた学習環境が確保され、十分な成果を上げています。

子どもたちが、スマートフォンやゲームを長時間する中で、ネット上のいじめや犯罪被害につながるケースが、大きな問題となっています。また、健康面の心配や学習時間の減少など、生活習慣の乱れも指摘されています。令和5年12月現在、小学校4年生～6年生の40%、中学校1年生～3年生の71%の児童・生徒が自分のスマホや携帯電話を所持しています。里庄町では、統一ルールとして、「使うのであれば午後9時までの使用とする。家庭の事情により、家庭内のルールが弾力的になる場合も考えられるが、友達等には、午後9時以降はメールやラインを送らないようにする。」としています。子どもを守るのは、社会の大人全体の責任であり、とりわけ、子どもの一番身近にいる保護者の行動が大変重要です。そこで、統一ルールと合わせて、家庭内のルール作りを子どもと共に進めるよう、各家庭での取り組みの徹底をお願いしています。

GIGAスクール構想の本格実施に伴い、里庄町の小中学校では、一人1台コンピュータ端末の導入を行っています。引き続き、児童・生徒に各教科等で必要とされる資質・能力を身につけるため、「一斉学習」「個別学習」「協働学習」の3つの場面での活用を行いました。特に、「協働学習」で活用することを重点とし、協働学習ツールの積極的な活用を進めました。これにより、児童生徒の主体的・対話的な学習に結びついたり、思考力・判断力・表現力やコミュニケーション力の向上に繋がったりするなど、問題解決型学習のより一層の推進がみられました。

子どもたちの英語によるコミュニケーション能力の向上に努め、グローバルな人材の育成を目的とした英語指導助手については、令和元年度から自治体国際化協会による、語学指導等を行う外国青年招致事業「JETプログラム」から3名の体制で授業を行いました。

里庄町では、学校給食は子どもたちの体や心を育てるのに重要なものであり、食事は人づくりの上でとても大切なこととして、学校給食に力を入れてきています。自校給食を実施し本年度当初は、新型コロナウイルス感染症の影響で、食堂での給食は実施していませんが、5類に移行した後、小学校の低学年から、できたての給食を食堂で食べる取り組みが再開されました。

学校等の教育施設における環境改善を図る取り組みについては、里庄東小学校では、一人一台端末の導入により、使用頻度が低くなっていた「PC教室」を、様々な用途で活用ができるように「多目的教室」に改修を行いました。

里庄西小学校では、経年劣化により、安全性にやや問題が出ていた屋外運動場北側の防球フェンスや、老朽化が進んだ屋外運動場の体育砂場施設の更新を行いました。また、学校給食厨房施設では、昭和59年の建設からこれまで改修がなされていなかった「洗浄室」の大型厨房機器である食器自動洗浄機の更新と、洗浄室内の改修を行い、給食厨房施設における機能面と衛生面での改善を図りました。

里庄中学校では、普通教室等の室内照明を高効率照明へ改修、また、管理教室棟及び特別教室棟を建設した昭和54年当時から可動していた、消防用設備機器や受水槽を全面改修し、設備面における改善を図りました。

(2) 社会教育

新型コロナウイルス感染症は、令和5年度の社会教育にも多少の影響が残ったものの、町民の方々のご理解とご協力のおかげで、徐々に普段の社会教育環境に戻りつつあります。また工夫や協力をしながら、新たな社会教育環境を形成しています。

町民のニーズに応じた各種講座を開設しており、多くの町民が文化活動を通して生きる喜びを感じ、自己実現を図っています。今後も、企画運営を受講者自身が行う講座となるよう、一層の充実に努めます。

岡山県が制定した11月1日の「教育の日」に関連し、「里庄町教育を考えるつどい」、小学校入学前の就学時健診時と中学校入学前の入学説明会の際に行う子育て講座や、保護者同士が共通の悩みをお互い考える、議論し合う講座など、家庭教育についての研修を行う機会については、中には開催を中止した事業もありましたが、内容を変更するなど工夫して事業を行いました。

平成28年度から始めた、学校の授業だけでなく、子どもたちが自ら学び体験することで生きる力を育み、地域全体で子どもを育てていく事を目的とする「さとしょう未来塾」事業も8年目となりました。自学自習を基本とした学習に取り組む「里ちゃん寺子屋」と体験を通じて子どもたちが「生きる力」を身につける「里ちゃんチャレンジ・ワールド」の2本の柱で、新型コロナウイルス感染症対策に配慮しながらも計画どおり実施し、地元地域の方々や、文化協会の方々、虚空蔵大学生などの協力を得ながら、地域の子どもは地域で育てることをコンセプトに取り組みました。子どもたちが地元の歴史をあらためて見直し体験する機会や、笠岡市白石島や北木島の自然を活用した体験活動、地域の方の支援をいただき実施する大原焼体験、地元企業のご協力のもと行う木工教室など、子どもたちが普段経験できない事業になるように検討・工夫を行いました。(※資料6)

町立図書館は、順調に蔵書数を増やし、令和5年度末に16万3千冊余りになりました。本年度も町民に気軽に利用していただき、町民に親しまれる図書館を目指して展示や行

事・催し物を工夫しています。新型コロナウイルス感染症の影響がほぼ無くなり、1年を通して通常の業務を実施することができました。令和5年度の開館日数は276日、来館者は5万4千人を超え、令和4年度より約2千人増加しました。一方、貸出冊数は、約1万5千人の方に約6万2千点の貸出で、やや減少しています。

令和5年度の活動の展示関係では、文化協会関連のもの、幼小中関連のもの、里庄出身の方の絵画展など、大小あわせて27の展示を行いました。また、催し物では、ボランティア団体「お話トトロ」の協力をいただき、年3回のおたのしみ会をはじめ、司書による毎月第2日曜日のおはなし会、レジン液を使用した菊桜のキーホルダー作り、ビブリオバトルやペーパークラフトの図書館講座など、様々な取り組みを行いました。

さらに、佐藤清明資料保存会の活動拠点（事務局）となっており、年間を通して「清明研究会」や「清明を読む会」などの活動に取り組んでいます。毎年図書館で開催している「里庄のせいめいさん」展も、多くのお客様に好評をいただいております。令和5年度は、「菊桜育成保存会」の地道な活動が認められ、令和6年度の「全国さくら功労者」に選ばれました。また、5月26日に岡山ジップアリーナで開催された「全国植樹祭」では、菊桜を皇后陛下がお手植えされ、注目されるとともに、その価値を広めることができました。なお、この植樹祭に、5名の保存会員が一般招待されました。

本年度も図書館を利用される方に、より楽しんでいただけるように、また、安全かつ安心して施設を利用していただけるように、さらには、信頼していただけるように、毎月の展示の工夫、図書館司書による「おはなし会」の充実、新たな図書館講座を開いたり、図書館主催の催し物をより楽しいものに改善したりするなど、様々な取り組みを行ってまいります。また、令和5年度のふるなびクラウドファンディングでいただいた善意の資金をもとに、学習スペースの拡充を進めてまいります。

県立図書館や高梁川流域7市3町の図書館相互利用等、生涯学習の拠点施設として、町内外から好評をいただけるように努力してまいります。子どもたちが喜んで、本と親しめる環境づくりと、乳幼児と親子が安心して利用できる場所「おはなしの部屋」では、親子が読みたい本を自由に手にして読むことや、読み聞かせることで、読書の習慣づけができる環境が定着しており、大変好評をいただいております。

男女共同参画社会の推進等、人権意識の高揚に関しての講座として、保育園・幼稚園・小学校・中学校教員やPTA会員の方々を対象に、8月21日には、第1回人権教育講座「発達支持的生徒指導の実際―集団体験による学びを通して―」、8月24日には、第2回人権教育講座「子ども虐待について考える」と題し、研修会を実施しました。また、3月25日には、岡山シーガルズの協力により「思いやりの心を大切にしよう」と題した講演と健康ストレッチ講座を実施しました。今後も状況の変化に適切に対応しつつ、事業の改善等を進めていく予定です。

文化の振興に関しては、総合文化ホール「フロイデ」や福祉会館、中央公民館などを有効に活用し、町民自らの活力や、行政と町民との協働によって、得られるエネルギーを生かしながら、町民のニーズと本町の実情に合った事業を展開してきました。町民の方々が感染症対策を講じられ、協力をしながら、無事に運営できております。文化ホール事業では、お客様の感染症対策のご理解とご協力により、「夏休み子ども劇場」や、海上自衛隊呉音楽隊「ハートフルコンサート in 里庄」を開催することができ、音楽の素晴らしさを実感することができました。引き続き、施設の老朽化などの課題もあり、一層の改善、充実に努める必要があります。

歴史民俗資料館では、仁科・小川両博士関係の遺品や、大原焼、麦稈真田関係の道具類、昔から使用されてきた生活道具や農具などの展示公開も行っています。企画展示として「大原焼の狛犬」「菊桜展」を実施しました。今後、文化財保護委員と学芸員が連携して、館内収納物の整理や、開館日の変更や周知方法について検討してまいります。

文化財保護委員会は、教育委員会の諮問に応じて、文化財の指定・解除、保存及び活用に関し必要な事項を調査・研究し、教育委員会に答申しています。5年度は、町内外の一般の方を対象に里庄の文化財を紹介する「マキサヤ遺跡」をテーマにした歴史講座の開催、小学生を対象とした大原焼の制作体験、資料館を会場としたしめなわ飾り体験、絵付体験などを関係機関・団体の協力のもと里庄町の歴史や文化について触れるイベントを実施しました。今後も町内だけではなく町外の文化財研究にも力を注ぎ、保護委員会や学芸員と共に研修を行ってまいります。

スポーツの振興については、新型コロナウイルス感染症が5類に移行したことで、多くのスポーツ事業を実施できました。スポーツ協会主催の大会である野球大会やソフトボール大会、生涯スポーツであるソフトバレーボール交流大会、新たな事業としてグラウンド・ゴルフレディース交流大会等を実施することができました。

青少年を対象にしたスポーツでは、町内の学童スポーツ団体である、少年野球クラブ・里庄FC・柔道スポーツ教室・剣道スポーツ教室が様々な大会に出場し、日頃の練習の成果を発揮し、各団体で素晴らしい成績を残しました。

町の一大事業である厚生体育大会は名称を里庄町民スポーツ交流大会に変更しました。「分館対抗で競い合い、優勝を決める」という従来のやり方を改め、「参加してくださる町民の方々に楽しんでもらい、分館の交流を深める」ことを主たる目的として、プログラムや運営方法を見直し開催しました。

また新型コロナウイルス感染症による影響等で、長年未開催となっていた体力づくりふれあいマラソン大会は、無事開催することができました。また、晴れの国岡山駅伝競走大会には、里庄チームとして出場することができました。

スポーツ施設の開放については、新型コロナウイルス感染症による利用制限もなくなり、町内の社会体育施設を町内・町外の方々に利用していただくことができました。

今後も町民の方々の健康づくり・地域の絆づくりのために引き続きスポーツ行事の運営を行っていきます。

生涯学習施設や文化施設など、施設の環境改善の取り組みについては、生涯学習施設では、有事の際に一時避難所として開設する東公民館において、劣化が進行していた屋上屋根の防水層を全面改修し、施設の延命化を図りました。また館内の一部の部屋の内装改修及び空調設備の改修を併せて実施しました。文化施設では「里庄総合文化ホール」の電気式空調設備機器の一部を改修し、ホールの設備面での環境維持を図りました。今後も計画的に施設環境を充実してまいります。

IV 学識経験者の知見の活用

地教行法第26条第2項に基づき、元里庄町教育委員 定兼正明 氏に点検及び評価
に関しての助言及び意見をいただきました。

里庄町では町執行部、教育委員会、学校現場に互いの立場を理解・尊重し、信頼すること
で教育行政が円滑に進められています。しかし、世の中の流れや考え方は大きく変化をして
おり、学校教育や社会教育において教育委員会の役割は重要であり、施策の点検・改善は必
要と考えます。

学校教育においては、町内の園児、児童、生徒は落ち着いた雰囲気の中で日々学習してお
り、保育園とも連携し、中学校を卒業するまでの一貫した教育目標を共有し、取り組んでい
ます。

また、「里ちゃんだより」の回覧により学校教育の今を町民に知らせたり、それぞれの学
校には学校運営協議会が設置され、教職員、PTA、地域の連携も着実に進んでいるように思
います。

GIGA スクール構想によって、ICT の環境整備は進み、幼いころからデジタル機器が身近
にある現在、子どもたちの将来を見据え、ICT を活用した自律的な学習、思考力・問題解決
力の育成を図るとともに、デジタルリテラシーにも力を入れていただきたいと思います。

教員の働き方改革を進める中で、学校行事も見直しが進んでいますが、子どもと向き合う
時間は大切にしていきたいと思います。

社会教育においては、文化・スポーツの両分野で各種団体が活動しており、多くの町民が
生きがいを感じ、心と体の健康に寄与しています。一方でメンバーの恒常化など考えるべき
課題もあると思います。今後の活性化に期待します。

教育委員会においては、多様化する社会の中で、さまざまな要望や意見に対処しながら事
務処理を行うのは大変だと思いますが、「人づくり」の誇りをもって取り組んでいただきた
いと思います。

里庄町社会教育委員に点検及び評価に関しての助言及び意見をいただきました。

学校や体育施設の老朽化に計画的に対応してくださり、使いやすくなっているありがたいです。

社会教育施設「中央公民館・東西両公民館」や文化施設「総合文化ホール」については、設置された当時としては、充実した施設であったが、社会の高齢化が進み、高齢者を中心とした利用者からエレベーター設置の要望が出て久しい。現状の施設に設置することは厳しいが、看過できない今後の課題であると認識しています。

高齢者が気軽に集まれる施設があるといいと思います。

図書館での「里庄のせいめいさん」の知名度が、町内外に広まっているように感じています。

「厚生体育大会」は、「町民スポーツ交流大会」に名称を変更、また従来のやり方を変えて、町民に楽しんでいただき、分館の交流を深めたりすることを目的として開催することができてよかったと思います。

新型コロナウイルス感染症が、5類に移行したことで、様々な活動を実施することができてよかったと思います。

V 終わりに

令和5年度の本町教育委員会事務の管理及び執行の状況について点検及び評価を実施し学識経験者及び社会教育委員の助言及び意見などをいただき報告いたしました。

今年度は、新型コロナウイルス感染症が5類に移行したこともあり、感染症への対応については、穏やかになりました。コロナ禍での、短いながらも培ってきた経験を生かした取り組みをはじめ、各種事業が再スタートした年でもありました。今後も感染症対策は行いながらも、新しい生活様式の実効性について考え、関係各種事業等に取り入れてまいります。

その中で、今後も教育委員自らが点検及び評価をし、教育委員会を充実させ、教育委員会が町民にとって身近になるよう努力し、町民に支えられた、町民のための教育行政が展開できる教育委員会になるよう、引き続き努力したいと考えております。

資 料

資料 1

令和5年度教育委員会会議

定例会

4月3日(月)	5月24日(水)	6月30日(金)	7月20日(木)
8月25日(金)	9月21日(木)	10月27日(金)	11月24日(金)
12月18日(月)	1月23日(火)	2月20日(火)	3月11日(月)

資料 2

教育委員が出席した主な研修会等について

※ 里庄町教育委員会県外視察研修

9月25日(月)～26日(火)	埼玉県和光市教育委員会 理化学研究所
-----------------	-----------------------

※ 岡山県市町村教育委員会連絡協議会研修会

11月24日(金)	Zoomによるオンライン会議
-----------	----------------

書面会議となったもの

※ 岡山県市町村教育委員会連絡協議会総会

資料 3

教育委員が出席した行事等

令和5年4月3日（月）	新任教職員着任式
令和5年5月6日（土）	令和3年成人式代替事業「里庄町22歳のつどい」
令和5年5月24日（水）	西小運動会
令和5年5月26日（金）	東小運動会
令和5年6月9日（金）	小川賞授与式
令和5年6月30日（金）	教育委員学校訪問
令和5年8月13日（日）	無縁者供養塔の盆供養
令和5年8月19日（土）	理化学研究所里庄セミナー
令和5年8月27日（日）	仁科芳雄博士顕彰 ロボット・コンテスト2023
令和5年9月24日（日）	第71回町民スポーツ交流大会
令和5年9月27日（水）	東幼稚園運動会
令和5年10月12日（木）	中学校運動会
令和5年10月13日（金）	西幼稚園運動会
令和5年10月28日（土）	第23回里庄町教育を考えるつどい
令和5年11月11日（土）	1日学校公開
令和5年11月11日（金）	東小学習発表会
令和5年11月21日（火）	西小学習発表会
令和5年12月6日（水）	仁科賞授与式
令和5年12月8日（金）	仁科芳雄博士生誕日記念科学講演会
令和6年1月7日（日）	令和6年里庄町はたちの集い
令和6年1月25日（木）	里庄東小学校創立150周年記念式典
令和6年2月6日（火）	令和5年度里庄町立志の会

※ 幼稚園・小学校・中学校 入学式については、新型コロナウイルス

感染症拡大防止の観点から、各学校園とも来賓の出席を取り止めとしたが、

卒業式については、来賓の出席を従来どおり行った。

里ちゃんだより



里庄町教育委員会

電話 0865-64-7212

里庄町教育委員会 教育長 杉本 秀樹

町民の皆様方には、教育行政の推進につきまして、平素より何かと大変お世話になっておりますことに、心より感謝とお礼を申し上げます。

新型コロナウイルス感染症の5類への移行に伴い、学校園では、以前の生活様式に概ね戻りつつあります。子どもたちの表情も、幾分明るさを取り戻したように感じます。依然、気を付けて学校園での生活を送ることは必要ですが、子どもたちの健やかな成長のため、努力して参ります。社会教育においても、町民の方々が元気に活動しておられるお姿を拝見し、活気のある公民館に戻りました。令和5年度も、「子どもの元気な声が響き、みんなの笑顔があふれるまちをめざして」を教育行政の基本目標として取り組んでいます。そのため、学校、家庭、地域が一体となって取り組むことが大切になります。さらに、大人も子どもも夢や目標に向かって、いきいきと生活できるように、地域に根ざした、文化、芸術、スポーツ等を生涯にわたって学び、楽しむことができる環境づくりを進めてまいります。

町民の皆様方の今後とものご支援・ご協力をお願い申し上げます。

令和5年度 里庄町の教育目標

子どもの元気な声が響き、みんなの笑顔があふれるまちをめざして

- 1 生きる力を育む学校教育の推進
 - 学校教育「確かな学力」「豊かな心」「健やかな体」
 - ・認めること ・非認知能力の育成（3シヨンプログラム～「里庄」の力～）
 - ・学校給食 ・GIGAスクール
 - 家庭教育（認めること、基本的な生活習慣、しつけ、あいさつ、家庭学習）
 - 地域の人々との連携（コミュニティスクールの推進）
- 2 心豊かで生きがいを育む生涯学習の振興
 - ・主体的に学習機会を選択して学び、その成果を社会に活かしていくことができる「生涯学習によるまちづくり」の実現
 - ・豊かな地域づくり」に反映される生涯学習の推進
 - ・やすらぎと居るおいを感じる芸術・文化の振興・歴史の保存
 - ・総合文化ホール等の各施設の文化活動を充実
 - ・郷土に対する理解や愛着を深め、豊かな感性や心の育ちを促進するシビックプライドの醸成
 - ・世代を超えての各種文化活動や町民の文化遺産保護意識の高揚
- 4 生涯にわたるスポーツ活動の振興
 - ・各種スポーツ活動の振興 ・スポーツ指導者の養成・確保
- 5 異なる国や地域・人との交流活動の推進
 - ・幼稚園、小、中学校における、国際理解教育、英語活動の推進
 - ・国際感覚を養う機会を提供し、多文化共生社会の実現を推進



認めて育てる!

学校園紹介

～今年度の学校園の取り組みをお知らせします～

心豊かに自ら学ぶ生徒の育成を目指して

里庄中学校長 國府 道弘

「なんかおもしろいことをしよう！」

始業式でこのように生徒に伝えて、令和5年度をスタートしました。たった3年しかない中学校生活。多くのことを「自分ごと」として捉え、主体的に「気づき・考え・実行する」ことで、1年生100名、2年生117名、3年生91名の合計308名、11学級の生徒全員が、多くの経験を積み、成長していつてほしいと切に願っています。

令和5年度は、コロナ禍前に近い形で各教育活動を行うことができるようになりました。3年生は長崎を中心とした北部九州方面へ修学旅行、1年生は福山研修、2年生は広島研修をそれぞれ5月までに無事実施することができました。



3年生修学旅行
～ハウスデンボスにて～

学校教育目標「心豊かに自ら学ぶ生徒の育成」のもと、
○夢や希望をもち、自ら進んで学習し、「分かった」「できた」を体感できる生徒

○何事にも果敢に挑戦し、成功体験のみならず、失敗から学ぶことができる生徒

○自分を大切に、人を大切に、地域を大切に、思いやりと感謝の心を持つ生徒

○責任ある行動を身につけ、心身ともに健康な生徒の育成を目指します。

生徒たちは、日々、落着いて学習に取り組んでいます。各種行事におけるの実行委員活動や専門委員会での活動等にも積極的です。修学旅行では、実行委員が3年生全体に語りかけ、その意を汲んで全体が主体的に動く姿が多く見られました。「さすが里中の3年生!」と感心させられることばかりでした。

本年度も、保護者、地域の皆様のご理解とご協力をいただきながら、ひとりひとりの生徒の可能性を広げていく指導・支援をしていきたいと思っています。どうぞよろしくお願いたします。



1年生参観授業
福山研修の振り返り
【プレゼンテーション】

「笑顔」「得意」「ありがとう」のあふれる学校をめざして

里庄東小学校・東幼稚園長 土屋 新太郎

里庄東小学校は、本年度全児童302名、全15学級でスタートしました。本校は、今年度で創立151年目を迎え、次の半世紀に向けてのスタートとなりました。一日一日が「笑顔」で始まり、「ありがとう」で終わる。そして、子どもたちや先生方が、自分の「得意」を活かして、お互いを認め、お互いの幸せを願って元気で前向きに活躍する学校をめざして、日々の授業や特別活動に全力で取り組んでいます。学校教育目標の「心豊かなたくましく見聞の育成」、めざす児童像は「よく学ぶ子」「くじけない子」「おもいやりの子」を柱とし、保護者や地域の方々のご理解やご支援をいただきながら、里見の子どもたちの心身共に健やかな成長を図ります。特に今年度からは、地域の方々のご協力をいただきながら、地域の自然や文化、歴史などについて学ぶ地域学を充実させる計画です。



5月に行われた運動会で組体操に
本気と全力で取り組む児童



菊桜保存会の出前授業で
「菊桜」について学ぶ児童



本物のこいのぼりを見て
思い思いの絵を描く園児

東幼稚園は、年少りす組・年長くま組合わせて34名です。今年度は、本園創立70周年を迎えます。この節目にあたり、本園の園歌を作りしました。園児が互いに関わり合い、五感を使って主体的に遊ぶことを通して、「げんきなこども」「やさしいこども」「がんばるこども」「かんがえるこども」を育てていきます。幼稚園・小学校ともに、保護者地域の皆様の温かいご支援と見守りをいただきながら、「認めること」と「非認知能力の育成」を大切に、安全・安心で信頼される学校の園の創造をめざします。どうぞよろしくお願ひいたします。

教育相談日のお知らせ

日 時 毎週 月曜日・火曜日・水曜日
午前9:00～12:00 午後1:00～5:00
場 所 「里庄むつみ会館」(里庄町大字里見1004番地)
お子様の学習や発達障害等について、相談を希望される方は、教育委員会事務局
(0865) 64-7212 までご連絡をお願いいたします。(ご希望日時が重なった場合、調整
させていただきます。)

担当者 教育相談員 栗尾 康子

里西っ子の「生きる力」を育てる

里庄西小学校・西幼稚園長 柚木 康男

本年度、里庄西小学校は全校児童362名、全16学級でスタートしました。「切磋琢磨」の校訓と教育目標「里西っ子の生きる力を育てる」のもと、「めざす子ども像」の「よく考え進んで学ぶ子ども」「仲良く助け合う子ども」「明るく元気な子ども」の3つを目指します。子どもたちのよさや頑張りを確かに認め、様々な人との交流を通して自己肯定感や非認知能力を高める教育を進めます。重点としている具体的な取組は次のとおりです。

- (1) よく考え進んで学ぶ子ども (知)
 - 学ぶ楽しさ、できる喜びを感じる魅力ある授業づくり
 - 基礎・基本の徹底 ○伝え合う活動の充実で表現力を育成
 - 学習規律の徹底 ○意欲的に進める家庭学習の充実
- (2) 仲良く助け合う子ども (徳)
 - 認めて伸ばし自己肯定感を育む学習指導・学校行事
 - 人・時間・協働を大切にする生徒指導 ○道徳指導の充実
- (3) 明るく元気な子ども (体)
 - 体力づくりの推進と健康安全の強化 ○基本的生活習慣の確立
 - 食育の推進



運動会で地域の方と
里庄音頭を踊る児童



異年齢で一緒に遊ぶ園児

西幼稚園は、年少りす組・年長くま組合わせて園児数39名でスタートしました。小学校と一貫した教育目標を設定し、遊びを通して「意欲をもってがんばる子」「思いやりのある子」「元気な子」を育てていきます。本年度も、保護者、地域、町民の皆様のご理解とご協力をいただきながら、心豊かで、たくましく里西っ子を育てていきたいと考えています。どうぞよろしくお願ひいたします。

スマートフォン・ゲームの適切な利用についてのお願い

子どもたちが、スマートフォンやゲームを長時間する中で、ネット上のいじめや犯罪被害につながるケースが、大きな問題となっています。また、健康面の心配や学習時間の減少も指摘されています。里庄町では、統一ルールとして、「使うのであれば午後9時までの使用とする。家庭の事情により、家庭内のルールが弾力的になる場合も考えられるが、友達等には、午後9時以降はメールやラインを送らないようにする。」としています。



ルール作りは保護者の責任です。その責任を果たすことが、子どもを守ることに繋がります。保護者の責務として、家庭内のルール作りをお願いいたします。ご家庭で、お子様としっかりと話し合っ、子どもも納得するルール作りを進めてください。

※各家庭での徹底をお願いいたします。

指導主事 天野 正彦

里ちゃんだより



里庄町教育委員会 電話 0865-64-7212

教育長あいさつ

里庄町教育委員会 教育長 杉本 秀樹

町民の皆様方には、教育行政の推進につきまして、何かと大変お世話になります。改めて心より感謝申し上げます。コロナ禍での様々な制限・見直しを行いながらの学校教育や社会教育の活動から、以前のような、制限のない活動へと徐々に戻ってきました。活動されている皆様方の笑顔あふれるお元気な様子も以前にも増しているようで、本当にうれしい限りです。これまでも以上に、ご利用いただけた方々の元氣と笑顔がふれるように、教育委員会職員も頑張っていきたいと考えております。

また、各幼稚園、小学校、中学校におきましても、日常の学習活動や学校行事が存分に行えるようになってきました。運動会や学習発表会など、保護者等の方々にも、特別な制限を設けることなく、お越しいただいております。本年度もあつという間に、後半になりましたが、これからも、子どもたちを認め続けることを大事にしながら、子どもたちの笑顔と元気な姿がいっつも見られるように、教職員と力を合わせて魅力的な学校・園教育を運営して参ります。

今後とも皆様のご理解とご協力を仰ぎながら、学校教育・生涯学習のさらなる推進を図ってまいりますので、どうぞよろしくお願ひいたします。

里庄町の子どもの学力について（全国、岡山県学力・学習状況調査の結果より）

今年度も、全国学力・学習状況調査、並びに岡山県学力・学習状況調査が行われました。結果の概要をお示しします。全体としては、ここ数年、全国平均と比べてほぼ同程度か上回る状況であり、特に大きく心配する状況は見られません。

全国学力・学習状況調査（小学6年生、中学3年生）では、小学6年生（国語・算数）と中学3年生（英語）で全国平均を上回り、中学3年生（国語・数学）で、全国平均並みとなりました。岡山県学力・学習状況調査（小学3年生～5年生、中学1年生～2年生）では、小学生の国語（全学年）と算数（3、4年）、中学生の国語（2年）と数学（全学年）と英語（1年）で全国平均を上回り、小学校の算数（5年）と、中学生の国語（1年）と英語（2年）で全国平均並みとなりました。今後も、結果だけを見て一喜一憂するのではなく、子どもたちのよさや頑張りを的確に認め、自己肯定感を育みながら、一人ひとりの子どもたちがもっている力を、さらに伸ばしていくことが大切だと考えています。

里庄町では小学校と中学校が連携して、学力向上の重点目標を次の3点に決めて、充実を図っています。

- ①基礎・基本の徹底 ②表現力の育成（書く力） ③家庭学習の充実

今後も、学校・家庭・地域で力を合わせ、「豊かな心」「確かな学力」「健やかな体」の育成に全力で取り組んでまいります。（文責 指導主事 天野正彦）

Something Fun Something Interesting（楽しいこと 面白いこと）

里庄中学校長 國府 道弘

つけたい力

2学期から非認知能力を9つの里庄中「つけたい力」①忍耐力②レジリエンス③協調性④コミュニケーション力⑤郷土愛⑥当事者性⑦論理的思考⑧批判的思考⑨創造性として整理し、生徒・教員で共通理解を図っています。取り組みが進み、授業の振り返りで「話し合いの中でコミュニケーション能力を養うことができた。」「班の活動や意見をまとめる時に批判的思考が大切だと感じた。」などの意識にも浸透しつつあります。この取り組みをさらに醸成させ、自己肯定感の向上・夢をもち、それに向かって努力できる力の育成を目指したいと思っています。



つけたい力を意識した授業2年生



つけたい力を意識した授業3年生

体育会

10月12日（木）体育会が行われました。開閉式での生徒の素晴らしい態度、きびきびとした動き、それだけで価値のある体育会であったと思います。圧巻は、3年生による応援パフォーマンステーマンズでした。夏休み中から準備し、一丸となって演じる姿に、鳥肌が立ちました。その他にも、リレーで激走する姿や8の字ジャンプでみんなので声掛け合いながら跳ぶ姿を見ることができ、大興奮・大感動の一日となりました。規模は縮小されましたが、里庄中の体育会の伝統は脈々と引き継がれています。当日ご来校いただき、温かく見守ってくださったすべての皆様に感謝いたします。



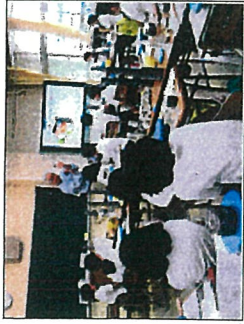
体育会3年生応援パフォーマンズ

週27時間プロジェクト

10月16日（月）より、生徒・教職員の日々の多忙さを緩和し、ゆとりのある生活を送ること、及びそれによる学びの質の向上を目的として月・水・金を5時間授業とするプロジェクトをスタートさせています。保護者の方には文書で周知させていただいておりますが、カリキュラムの大幅な変更にご理解をいただき、心より感謝しております。

この取り組みにより、生徒が地域で活動する時間が増えてきていること存じます。地域の皆様にも、より一層のご理解・ご協力をお願いいたします。

心豊かでたくましく里見っ子の育成 里庄東幼稚園・東小学校長 土屋太郎



大原焼の学習（5年生）

里庄東小学校は、昨年度、創立150周年の節目を迎えました。今年度は、次の半世紀に向けて本校が益々発展するための大切なスタートの年になります。開校以来大切に受け継がれてきた本校の伝統を受け継ぐとともに、児童一人ひとりに居場所があり、自分の得意を伸ばし、お互いの違いを認め合いながら協力できる学校づくりをめざして、保護者や地域の方々のご理解とご協力をいただきながら、日々の教育活動を工夫しています。今年度は、コロナ禍も明けて、地域の講師の方による菊桜の学習や大原焼り、大原焼などの地域学を充実させています。

また、小中連携活動では、夏休みの学習会に学習サポーターとして中学生の有志が参加してくれたり、陸上運動記録会に向けての児童の放課後練習に、里庄中学校陸上競技部員がアドバイスをしてくれたりするなどの取り組みが行われ、児童のやる気や勇気の高まりに繋がりました。さらに、本校では、非認知能力である「自己肯定感」「自己有用感」を高める教育活動の一環として、昨年度から「マイスター制度」を導入しています。この「マイスター制度」とは、自分の得意なことを伸ばしたり、新しいことや苦しいことにチャレンジしたりすることを目的とし「タイピング」をはじめ、今年度から新たに「あいさつ」「ぬいもの」「音楽」「スケッチ」など様々なマイスターが考案されており、児童は自分が希望するマイスターをめざして、意欲的に挑戦することができています。この取り組みにより、児童が、自分の好きなことにはもちろん、新しいことや苦しいことだと思っていることにも挑戦し、自分の得意を見つけているチャンスをなっていると感じています。

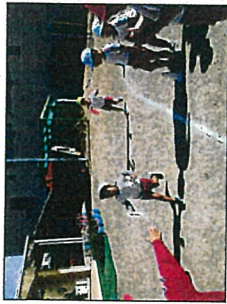
一方、里庄東幼稚園は、来年1月で創立70周年を迎えます。2学期が始まって以来、園児たちは猛暑の中、運動会の練習に励みました。当日は、多くの保護者の方々の声援をいただきました。一人ひとりが自分の力を一杯発揮する姿が輝いていました。この運動会では、仲間と協力し合ったり、励まし合ったりすることや、最後まで諦めないことの大切さを学ぶことができたと思います。

現在、12月初旬に行われる生活発表会に向けて、りす組・くま組ともに日々練習に取り組んでいます。また、チャレンジ遊びとして決めた目標の達成に向けて、友だちと励まし合いながら地道に努力する園児たちの表情は、とても生き生きとしています。最初は上手くできないことでも、諦めずに繰り返したり、自分で工夫したり、先生や友だちに教えてもらったりしながら最後までやり抜く、たくましい里見っ子に育ってほしいと願っています。

保護者や地域の皆様のご理解とご協力に対して心よりお礼申し上げます。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。



陸上練習のアドバイスをしてくれる里庄中学校陸上競技部員



リレオの練習を頑張る園児



チャレンジ遊びで縄跳びに挑戦する園児

豊かな交流活動について

里庄西幼稚園・西小学校長 柚木 康男

里庄西小学校は、明治6年に醸成小学（明治9年より醸成小学校）として創立以来、今年度で150周年を迎えました。PTAや地元企業のご協力をいただき、児童が主体となって様々な記念事業を実施しています。児童には、本校の長い歴史に誇りをもち、様々な記念事業が児童の生きる力につながることを願っています。

さて、新型コロナウイルス感染症が5類に移行し、里庄西小学校では、様々な交流活動を行っています。栽培活動で、異年齢（縦割り班）でパンジーをプランターに植える活動を行いました。これは、学年を超えた人間関係を豊かにし、協力しようとする態度が育つことを目的としています。上学年が下学年に優しく声を掛けたり、一緒に活動したりする様子が多く見られました。

また、1年生が、かすみ保育園・里庄西幼稚園の年長児と交流する会を行いました。1年生が、生活科の学習「あきたんけん」で見付けたものを使って遊ぶ「あきのおもちゃランド」を開き、小学校に園児を招待して一緒に楽しみました。そして、学習発表会で行う音読や歌、合奏を発表しました。1年生にとつては、学習の発表の場であり、園児にとつては、小学校の学習にふれ、小学校入学への期待をふくらませる機会の一つとなっています。これは里庄町で行っている保幼小接続カリキュラムに基づいて行っています。

里庄西幼稚園では、異年齢と一緒に活動することで、相手を思いやる気持ちや育むようになっています。年少児は、年長児が遊んでいる様子を見て、憧れを抱いたり、新しい遊びやルールを覚えたりします。また、年長児は、自分たちが手本となり、自分の言動に自信をもったり、成長の喜びを感じたりします。こうした集団の中で、遊びを通して生活に必要な力や態度を身に付け、心豊かに生きていく力を育てます。教師は遊びの環境構成や援助の工夫に努めています。

また、令和3年度から始まった里庄西幼稚園・里庄西小学校学校運営協議会（コミュニティ・スクール）では、継続してあいさつを重点にして取り組んでいます。11月には、学校運営協議会が主催であいさつの輪を広げることが目的に、紙ヒコーキ大会を実施しました。園児や児童、そしてたくさんの方のボランティアの方が参加してくださり、地域の方と交流を深めました。

このように学校・園では、保護者や地域の方と連携して、人との関わりを大切にし、豊かな学びができるように取り組んでいます。これからも園児、児童のよさや頑張りを的確に認めながら、非認知能力の向上を目指し、豊かな体験を通して、「里西っ子の生きる力を育てる」という学校・園目標の実現に努力してまいります。今後とも保護者、地域、町民の皆様のご理解とご協力をよろしくお願いいたします。



栽培活動の様子



「あきのおもちゃランド」の様子



チャレンジタイムで竹馬に挑戦する園児



学校運営協議会主催紙ヒコーキ大会の様子

里ちゃんだより



里庄町教育委員会

電話 0865-64-7212

「町民の皆様、いつもお世話になっております」

町民の皆様には、教育行政の推進にあたりまして、ご理解とご協力をいただき、心よりお礼を申し上げます。本年度は、新型コロナウイルス感染症が五類に移行したことにより制限がなくなり、コロナ禍以前のように、様々な事業を実施することができました。町民の皆様方のご協力により、参加いただいた方の笑顔や元気な姿を拝見でき、本当にありがとうございます。また、事業の中には、内容の見直しを行って実施したものもあります。これからも、皆様のご意見をお聞きしながら、よりよい事業になるよう実に実施していきたいと考えております。

また、幼稚園、小学校、中学校においても、多くの保護者の方・地域の方にご来園・ご来校いただきました。子どもたちの元気な姿や頑張りを、皆様に見ていただくことは、子どもたちにとって大きな励みとなります。これからも、開かれた学校・園づくりに取り組んで参ります。

本紙は、今年度行った教育委員会や学校・園の事業の一端をお知らせいたします。紙面の関係で掲載できませんでしたが、文化ホール事業として、夏休み子ども劇場や海上自衛隊のコンサートなども、多くの観覧者にご来場いただいていたところであります。これからも、教育委員会の職員一同が丸となって、町民の方をはじめ、お越しいただく全てのお客様に、笑顔でお帰りいただけるような催し物を企画していきたいと思っております。ご支援、ご協力をどうぞよろしくお願いいたします。

(文責：事務局長 村山 弘美)

コミュニティ・スクールを推進しています

町教育委員会は、コミュニティ・スクール（学校運営協議会制度のある学校・園）と地域学校協働活動（地域の方による子どもの支援、見守りなど）を一体的に推進しています。

コミュニティ・スクールでは、学校運営に地域の声を積極的に生かし、地域と一体になって特色ある学校づくりを進めています。



紙ヒコキ大会
里庄西幼小学校運営協議会



チャレンジ・ハイキング丁山
里庄東幼小学校運営協議会



中学生だっぴ (立志の会)
里庄中学校運営協議会

～ ふるさとの文化を学んでいます ～

里ちゃんチャレンジワールドー大原焼に挑戦ー（中央公民館）

10月29日（日）、11月3日（金）、大原焼プロジェクトの支援をいただき、地域文化の素晴らしさを知り、ふるさとを愛でる心を養うことを目的に体験活動「大原焼に挑戦」を実施しました。

参加した児童からは、「400年前、大原焼を始めた人は、本当に知恵がすごいな。」「大原焼の歴史を知ることができ、よい経験だなと感じました。実物も作れて、大原焼の良さも感じました。」などの感想がありました。1月24日（水）～2月3日（土）、町立図書館において「大原焼に挑戦」作品展を開催しました。10月、11月に開催された体験活動に参加した子どもたちが制作した、土人形と活動の様子を写真とパネルで紹介しました。

あわせて、大原焼プロジェクトによる「大原焼と山神社」のパネル展が行われました。町の主要産業であった大原焼のすばらしさを地域の方々に知っていただきました。



施釉（釉薬を塗りました）



土人形には絵具とニスを塗りました



図書館で作品展を行いました

大原焼を体験しました（東・西小学校）

東・西小学校でも、総合的な学習や図画工作科の学習時間で、大原焼について大原焼プロジェクトの皆様にご支援いただき、作品を制作し、ふるさとの伝統文化を学ぶことができました。



「大原焼のはじまり」講義



成型「マグカップの制作」



窯出を待つ作品

(文責：教育コーディネーター 蜂谷 真治)

わくわく科学ランド&木のおもちゃ広場@里庄

12月16日(土)、里庄中学校体育館において町内の児童・幼児と保護者、ボランティアの約100名が集い、科学の不思議を体験しました。参加した児童からは、「キラキラしゃぼん玉が前よりうまく作れた。中学生のお姉ちゃんたちの教え方もやさしかった。」「木のジャングルジムは、大工さんになった気分が楽しかった。」など、ボランティアスタッフからは「いろいろな人にかかわることができ、楽しかった。」「分かってもらえたり、喜んでもらえたりしてうれしかった。」など感想をいただきました。

また、保護者からは、「親子そろって楽しい時間を過ごさせてもらいました。楽しむだけでなく、きちんと片付けまでさせて、遊び方の基本を示してくださり、嬉しかったです。ボランティアの小・中学生がとてもしっかりと子育てできる幸せを再認識しました。」との感想をいただきました。

(文責：教育コーディネーター 蜂谷 真治)



キラキラしゃぼん玉
「くるくるレインボー」



木のジャングルジム
「くわんだー」



参加者全員で片付け

町民運動会の再開

今年度は昨年度以上にスポーツ事業を開催することができました。その中でも6年ぶりの開催となった里庄町民スポーツ交流大会では、各分館をはじめ、町民の方が多数参加し、大いに盛り上がりしました。従来は「厚生体育大会」という名称で実施しておりましたが、町民の交流を図ることを目的とし、「里庄町民スポーツ交流大会」と名称を新たにしました。新種目を取り入れ、時間短縮などを行ったりし、運営方法も見直して大会を開催しました。久しぶりの運動会に、参加者たちは笑顔で声を掛け合いながら、協力して種目に臨んでいました。特に大会の最後を飾る「男女混合リレー」では手に汗握る白熱したレースが展開され、会場全体から大歓声が沸き起こりました。大会を終えた参加者たちからは「久しぶりに開催されて嬉しかった。町民が揃って参加し交流を深めることができるので、今後も続けてほしい。」といった声がありました。

町民の皆様のご協力のおかげで再開することができました。「里庄町民スポーツ交流大会」を引き継いでいくために、様々なご意見を参考にしながら、今後も運営を行ってまいります。

(文責：井上 仁)



男女混合リレーの様子

令和5年度 里庄町立志の会

2月6日(火)、里庄中学校2年生117名を対象に「立志の会」が行われました。

今年度は、NPO法人だっぴの協力により、中学生が多世代の人との対話を通して、お互いの経験や価値観などを共有し、語り合いながら将来について考えるプログラム「中学生だっぴ」を行いました。これは、対話の中での自己表現を通して自信を高めるとともに、多様な生き方や考え方に触れることで、新しい価値観に出会い、人生の選択肢を広げることをねらいとしています。

キャストとして高校生・大学生と、地域からは、里庄中学校運営協議会が参加メンバーを募り、大勢の方が参加してくださいました。生徒たちと高校生・大学生・地域の大人が6〜7人程度のグループとなり「10年後、どんな自分になりたいか?」「描いた未来に近づくために、これからやりたいことは?」など様々なテーマについて意見を交わしました。

参加した生徒からは、「いろいろな人の意見を聞くことで自分の人生をより良いものにできそう。」「これからたくさんの方に挑戦し、失敗しても成功しても、挑戦する機会をくれた人への感謝の気持ち忘れずにしたい。」「まずは高校へ入学するために勉強を頑張ったり、将来の自分を思い描いたりしていきたい。」「などの感想が聞かれ、中学生たちがこれから大人になるまでの過ごし方や将来について考える、貴重な時間となりました。

(文責：山本 華代)

「第43回里庄町体力づくりふれあいマラソン大会」開催

2月18日(日)に晴天の中、第43回里庄町体力づくりふれあいマラソン大会が5年ぶりに開催され、子どもから大人まで幅広い年齢層の参加者が会場に集まりました。参加者はスタートの合図とともに勢いよく飛び出し、町内約3.1kmのコースを軽快な走りでゴールしました。スタートしてからあっという間にゴールしてくる参加者たちに、観覧者は驚きの表情を浮かべていました。親子の部では、親と子が仲良くコースを走り、最後は手をつないでゴールしました。子どもが親を引っ張ってゴールする姿に思わず

笑みがこぼれました。コロナ禍で、ここ数年はスポーツ行事を中止にせざるを得ない状況でしたが、新型コロナウイルス感染症が五類に移行したことで、多くの人が集まるマラソン大会や、町民スポーツ交流大会を再開することができました。今後も安全に配慮しながら、参加してくださる方々に楽しんでいただけるように努力してまいります。

(文責：井上 仁)



勢いよくスタートする選手たち



「立志の会」の様子



「中学生だっぴ」の様子

里庄町教育委員会の重点施策

○ 学校教育の安定と充実

1. 落ち着いた集団づくり

- ・ 基本的な生活習慣
- ・ 生活規律、学習規律の徹底（あいさつ、そうじ、はきもの、話の聴き方）
- ・ ハイパーQ U検査（小1から中3まで年2回の実施）
- ・ 生活支援員の配置（幼小中で25名）
- ・ 教育相談員の配置
- ・ 家庭との連携（里ちゃんだよりの発行、親学研修、教育講演会）

2. 確かな学力をつける

- ・ 1時間1時間の授業を大切にする（授業改善の推進）
- ・ 全国及び県学力調査の有効活用
- ・ 小中連携の取り組み

※里庄町の学力向上の重点目標

小中連携による落ち着いた学習環境づくりと学習意欲を高める
ための授業改善

①基礎・基本の徹底

②言語活動の充実による表現力の育成

（論理的に書く力・コミュニケーション力）

③家庭学習の充実（復習、予習を意識して、手引きの活用、生活時間調査）

※相互授業参観、出前授業、体験授業の実施、合同研修会（幼稚園含む）

- ・ 反復学習と補充学習

※朝の学習、帰りの会、サマースクールの実施

3. 豊かな心、豊かな人間性の育成

- ・ 人権教育、道徳教育の推進
- ・ 家庭・地域との連携、ふるさと里庄町への郷土愛を育てる。

立志式、二分の一成人式の取り組み、里庄まこもたけの学習、地域の偉人の学習

- ・ 食堂給食の推進と活用

○ 社会教育の充実

- ・ さとしょう未来塾（里ちゃん寺子屋、里庄チャレンジ・ワールド）を開設
※ 暁天座禅、地元企業や国際交流協会との共催事業、陶芸教室、科学教室
歴史や福祉活動の勉強や体験、地域の方々との共催事業等)
- ・ 子どもに豊かな心や科学的素養が育つ環境や機会を提供
※ 仁科芳雄博士生誕日記念科学講演会、柔道・剣道スポーツ教室、野球
サッカーなど、スポーツ少年団、立志式 等

○ 家庭教育の充実

- ・ 小学校就学時健康診断や中学校入学説明会時に、子育て講座（親育ちの研修）
を開催
- ・ 家庭と地域と学校が連携し、子どもを育むことについて考える「里庄町教育
を考えるつどい」を開催
- ・ 町内の学校、園の様子を広く知ってもらうため「1日学校公開」を開催

さとしょう未来塾

○ 里ちゃん寺子屋事業 参加人数

5月 12人	6月 12人	7月 13人	8月 12人	9月 9人
11月 6人	12月 6人	1月 12人	2月 12人	3月 14人

参加者 小学校4年生から6年生及び中学3年生 18人

指導ボランティア 10人（町内一般成人のみ）

1回あたり平均参加者 約11人

※ 中学校定期考査中に、中学生を対象とした寺子屋事業を開催

○ 里ちゃんチャレンジ・ワールド 参加人数（指導者等を含む・複数回数実施は延べ人数）

囲碁教室 9人

スポーツ教室 38人

暁天座禅 68人

冒険DAYキャンプ 51人

木工教室 37人

科学教室 7人

ハロウィンパーティー 200人

ハロウィンフォトコンテスト 56人

大原焼教室1 18人

大原焼教室2 17人

わくわく科学ランド 88人

しめ縄づくり 30人

トレッキング 39人